

学級経営は充実しているか

教育創造研究センター所長

たかしな 高階
れいじ 玲治

1 学級経営は学校教育の基盤

新学習指導要領は学級重視の考えである。

学級経営の重要性について、これまで学習指導要領レベルではほとんど提示されてこなかったが、今回は違う。学級を中心とする子供の生活・教育環境の重要性についての指摘が見られる。

言うまでもなく、我が国の学校は学級を単位とする担任制が敷かれ、学級担任を中心とする教育の諸活動が行われている。言わば、学校教育の基盤を形成しているのが学級である。特に小学校はほとんどの教科・領域について学級担任が担う形になっている。小学校の教育の実際は学級担任の指導に負うことが極めて大きい。

今回の新学習指導要領解説『総則編』に重要な指摘が見られることに注目したい。

「学級担任の教師には、学校・学年経営を踏まえて、調和のとれた学級経営の目標を設定し、指導の方向及び内容を学級経営案として整えるなど、学級経営の全体的な構想を立てるようにすることが求められる。」

この言葉で示されているように、学級経営は担任教師の個々の発想による独自の経営ではなく、学校・学年経営を踏まえること、また学級経営に関連する様々な教育活動を調和的にとらえること、さらに学級担任として一年間の指導をどのように展開するか、という具体的な構想を学級経営案として示すなど、を重視している。学習・生活に関わる指導の充実こそ求められている。

しかし、現状はどうであろうか。学級経営が担任まかせになっていて、どのような

経営観に基づく教育が実施されているか、が曖昧になっているのではないか。

例えば、学級の「荒れ」が発生する要因には、学級の個々の子供への適切な対応を欠いている場合が多い。授業のみが成立すればよいのではなく、日常の生活態度なども含めて子供同士のよりよい人間関係や学級としてのまとまりなどが重要である。

端的に言えば、学級のよりよいまとまりが学校全体の基盤そのものになると言える。学校経営の立場から学級経営を見直す必要が求められる。

2 学級経営はマネジメントである

学級経営を考えた場合、その内容は「多岐にわたる」と言われる。極めて漠然と把握されている。そこで整理して考える。

私は、次のように考えている。

- (1)基本的事項（学級目標、実態、組織など）
- (2)指導領域的事項（教科・領域等、朝の会・終わりの会などの自治活動、学級活動との関連、日常の生活指導など）
- (3)経営条件的事項（教室設営・環境、家庭連絡、学級事務など）
- (4)重点実施的事項（家庭学習習慣形成、学級行事への参画意識の高揚など、学級担任が特に重点的に取り組む内容）

確かに多岐にわたるが、学級経営の指導事項として細部に及ぶ子供個々への対応こそ重要なのである。また、細部にこだわりを持ちながら、学級を総体としてよりよい方向へ導くこと、子供に「おらが学級」という一体感をもたせることが重要である。

日常的に安定した学級の雰囲気を保ち続けることである。

新学習指導要領解説『総則編』には簡潔に「学習や生活の基盤として、教師と児童との信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること」と述べている。

ところで、多岐にわたる学級経営の内容事項を担任はどう豊かに展開したらよいであろうか。その基本は、学級経営はマネジメントであるとする考えが重要である。

もともと学級経営の英訳は Classroom Management である。つまり、学級経営をマネージする、その手立てが重要であり、マネジメント力を高める担任教師の経営観が必要とされる。学級マネジメントは、当然ながら目標 Plan → 実施 Do → 評価 Check → 改善 Action の経営方略を前提にしている。

その場合、学級担任のどんな学級をつくりたいか、という願いや期待が大切である。何よりも自分が担任する学級をどう導くか、というビジョンを描くことである。よい学級経営に感じることは、担任教師のロマンが見られることである。「おらが学級」という強い意識である。

3 学校・学年との連携重視でより豊かに

学級経営のビジョンがある程度確定できたとして、次に考えたいのは実践方略である。その最も重要なことは学級の子供個々がそのビジョンを受容し、達成に向けて努力するかどうか、である。その達成に向けた子供の動きをどう作り上げるかが担任の具体的な計画や実施方略であり、つまりはマネジメントである。

ただし、そのビジョンは固定化されない場合もある。スモール・ステップのような実践的な目標を掲げて、達成すれば次の新たなビジョンを掲げチャレンジするという

スタイルも必要である。一年間という過程は学級にとって大小の動きはつきものである。そのような動きに伴う活動が学級そのものを活性化させる要因になりうる。

また、学級には様々な課題が生まれることもありうる。例えば、いじめをしたがる子、忘れ物の多い子、偏食の子、休み時間にも教室から出たがらない子、特別支援の必要な子、日本語がわからない外国籍の子、掃除当番をしたがらない子、暴力的な子、などである。

学級担任は、学級に出現する個別の課題解決にも腕をふるえる力量が必要である。ただ、担任によっては、そうした問題を自分一人で抱え込む場合がある。要注意なのは、抱え込むことで問題が大きくなり、学校全体で解決しようとした時には、問題解決がかなり難しくなることである。

学級経営は、学校や学年との連携・協働としてのマネジメントでもある。何か問題が生じたとき、学校・学年が協力して取り組むオープンな組織化が重要である。

なお、学級経営の内容や指導事項は多岐にわたることから、学級マネジメントの必須の手立てとしてスケジュール管理を十分に行うべきである。

最近では、教師の日常の職務遂行に役立つプランニング・ノートが各種発行されるようになった。学級マネジメントをスケジュール管理と結びつけることで、学級経営をより効率的・効果的に実施できるようになってきた。

最後に繰り返すが、学級経営は学校教育の基盤になることに十分留意したい。